

がんの親を持つ子どもへの サポートグループ

CLIMB® プログラム



当法人では、がん治療中の親を持つ子どもを対象としたサポートグループを実施しています。
がん治療中のお母さま／お父さまのお子さまが対象のグループです。
同じような状況にある子どもたちが集まって、一緒に工作をしたり、みんなで話し合ったりしながら、
自分の状況や気持ちに向き合う力を高めていくことをめざしています。
そのために、CLIMB®プログラムを用いて、色々な職種のスタッフがお手伝いをいたします。
グループへの参加にご関心のある方は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【グループについて】

《対 象》 がんの診断を受け治療しておられるお母さまの
6～12歳(小学生)のお子さま 5～6名程度

《場 所》 相良病院 11階 はくあいホール
鹿児島市松原町3-31 天文館バス停・電車から徒歩10分

《日 時》 2019年 5月～6月の土曜、または日曜日
全6回 10:00～12:00

①5月25日 ②6月1日 ③6月9日 ④6月15日 ⑤6月22日 ⑥6月29日

《活動内容》 親子一緒におやつタイム
子どものグループ（お話、工作・活動タイム等）
親グループ（親同士の語り合い） ※任意参加で

《参加費》 無料

《スタッフ》 医師、看護師、臨床心理士

《実施責任者》 江口恵子（博愛会 相良病院 緩和ケア支援センター長）

- CLIMB®プログラム(Children's Lives Include Moments of Bravery)とは、アメリカで広く用いられているがんの親を持つ子どものためのグループです。
ファシリテーターはこのプログラムを行うためのトレーニングを受けています。
- グループへの参加ご希望の方には、詳しい説明と事前の面談(電話の場合もあり)をさせていただきます。
- 参加者には、グループ参加前後にアンケートを実施しております。アンケートへのご協力をお願い致します。

【 お問い合わせ先 】

担当: 梅木 隆志（緩和ケア病棟 看護師）

TEL: 099-224-1800

Mail: takashi-umeki@sagara.21.com



社会医療法人 博愛会

相良病院

SAGARA WOMEN'S
HEALTHCARE GROUP

☆ 子どもにとってのグループの意義 ☆

子ども達は、同じような経験をしている他の子ども達と共に話をしたり、すぐに仲良くなります。

悲しくなったり、怖くなったり、時には怒りを感じてしまうのも、それは普通の事であり、『自分だけじゃないんだ』ということを実感していきます。

このグループ活動は、同じ仲間と共に、安心・安全の場で、気持ちを抑え込んだり、我慢したりすることなく、穏かに表現していくことに役立つと思います。

【活動の内容】

	活動のテーマ	今日の気持ち	活動の内容
①	自分についてみんなに知ってもらおう。	幸せ・楽しい	自己紹介をしよう
②	“がん”について、“がん”の治療について知ろう。	混乱	“がん”って何？ キワニスドールを作ってみよう
③	悲しい気持ちを表現して、それを和らげよう。	悲しみ	こころのお面を作ってみよう
④	子どもが持つ“強さ”を表出して、不安を和らげよう。	怖い・不安	“強さの金庫”を作ってみよう
⑤	“怒り”の気持ちを表現して、上手に対処してみよう。	怒り	“怒りバイバイサイコロ”を作ってみよう
⑥	お母さん、お父さんとのコミュニケーションを積極的に図ろう。	気持ちを伝える	お見舞いカードを作ろう



【参加家族からの感想】

《子どもの声》

- ・お母さんが乳がんになったのは、自分のせいだと思っていたけど、だれのせいでもないし、自分でもできることがあるんだと思った。
- ・CLIMBで色々な気持ちを学んで、気持ちを出した方がいいと知って、出すようにした。そうすると、みんなに自分の気持ちをわかってもらえた。だから、これからも自分の気持ちを出していきます。
- ・好きな猫の切り抜きで金庫づくりをすることができたし、それを使って嫌だなあという気持ちも紙に入れて、しまうことができました。

《おかあさん、おとうさんの声》

- ・病気について子供に伝えるにも限界があり、ここで教えて頂き、子供が明るくなっていったことが良かった。
 - ・病気への不安が少しでも減ったのでとても助かりました。
 - ・親とはなかなか病気のことについて話す機会がなかったので、子どもの思いが知れて良かったです。不安もあったと思いますが、話を聞いたり、自分で気づいていったことで、自分なりの不安の解消法が見つかったのではないかと思います。
 - ・CLIMB®の活動にとっても救われました。この活動の前にも、どのように子どもに病気について伝えていくかということなども教えて頂いていたため、子どもの反応に気づき、すぐに対応することができたように思います。
- “がん”という言葉を使っていろいろと私に訊いてくるようになりました。
これからの家族にもきっと良い影響を与えてくれたと思います。